

令和5年度

第2回

関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会

日 時：令和5年9月28日（木）

11：00～12：45（予定）

場 所：関東森林管理局 2F 大会議室

次 第

1 開 会

2 議 事

（1）木材の需給動向について

（2）国有林材の供給調整について

（3）その他

3 閉 会

令和5年度 第2回 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会 出席者名簿

○委員

(五十音順・敬称略)

所 属 ・ 役 職 名	氏 名	出欠
株式会社フジイチ 代表取締役社長	石野 秀一	出席
福島県森林組合連合会 特別職共販部長	遠藤 誠寿	出席
栃木県 県東森林環境事務所 所長	川上 晴代	出席
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林業経営・政策研究領域 領域長	久保山 裕史	欠席
協和木材株式会社 代表取締役社長	佐川 広興	出席 (web)
東京合板工業組合 業務統括室長	佐々木 祐子	出席
茨城県森林組合連合会 代表理事専務	佐藤 信聡	出席
栃木県森林組合連合会 代表理事専務	佐橋 正美	出席
群馬県森林組合連合会 木材部長	鈴木 克志	出席
株式会社堀江林業 代表取締役	堀江 賢一	欠席

○関東森林管理局

官 職	氏 名	出欠
森林整備部長	川浪 亜紀子	出席
資源活用課長	梶井 昌克	出席
東京事務所 副所長	堀江 則之	欠席
企画官(木材需給対策)	飯村 善美	出席
上席技術指導官(木材供給担当)	奥村 忠充	出席
供給計画係長	井上 祥吾	出席
素材供給係長	齋藤 博	出席
素材供給係	神保 宏樹	出席

(別紙)

令和5年度 第2回 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会 議事概要

1 開催日時・場所

令和5年9月28日(木) 11:00~12:45

関東森林管理局 大会議室 (WEB会議併用)

2 議題

(1) 木材の需給動向について

(2) 国有林材の供給調整について

3 検討結果

虫害・天候不順や4月以降の木材価格低迷の影響で原木の入荷が減少した一方、在庫調整により製材工場の原木在庫が少なくなったことから、地域差はあるものの、現在、製材用原木の引き合いは強くなり、原木価格は底打ちから上昇傾向にある。

国産材製品の荷動きは依然として低調であるが、輸入材の過剰在庫が解消に向かい状況は徐々に好転してきているという意見もある。今後については、虫害の時期が終わり、新材が入荷されることによる原木の需要増、価格上昇が見込まれるが、合板工場の減産の継続や住宅需要の停滞により先行きの不透明感は強く、情勢を注視する必要がある。

以上のことから、現時点では国有林材の供給調整は不要と判断される。なお、国有林においては、各地域の状況を踏まえた確かな供給に取り組むとともに、供給調整が必要となった場合に備え、地域の実情に即して機動的に対応策が打てるよう引き続き検討をお願いする。

4 主な情報、意見

- 原木の荷動きは良く、販売量も増加、在庫量は減少。台風による大雨で寸断された道路の復旧の目途が立たず、出材が遅れており、丸太価格はじり高。製品の荷動きは悪く、販売量も減少、在庫量は減産により変わらず。角類の価格はウッドショック前に戻る。ロシア材と競合する野縁は価格が維持されている。
- 原木は9月に入り活発に動くようになった。入荷量が非常に少なく、価格は上昇傾向。合板工場の入荷制限は年内は続くと思われるが、秋田の合板工場が秋に原木の集荷を始めるようであり、その後は荷動きが変わる可能性がある。秋需に向けて、原木の価格は上昇すると思われるが、素材生産の担い手の不足もあり入荷量増加は難しい。
- 天候不順で、原木の出材量が減っており、また製材工場の手持ち不足感から、原木価格はスギ、ヒノキともに上昇傾向。ただし、住宅不振が長期化しており、原木価格の上昇は一時的なものと考えられる。
- 製品の荷動きはかなり良くなっている。欧州材の過剰在庫はようやく整理され、価格は正常に戻りつつある。輸入材の新規の契約はかなり価格が高く、国産材にとっては有利な展開かと思う。
- スギの3mの柱材は主要製品ではなくなってきたのではないかと。柱材を生産している工場は比較的多いが、住宅部材に占める割合はスギ、ヒノキ含めて2割程度と少ない。価格は今では間柱や母屋角等よりも安くなっていることもあり、今後は山での採材も工夫が必要なのではないか。

- 合板メーカーでは減産が継続しており、原木の仕入れに関しても調整中で当用買いの対応となっている。減産により原木・製品価格の大きな下落がないよう努力している。製品の動きは春先よりも出てきたが、増産するほどには至っていない。2024年問題で想定される配送用トラック不足、運賃上昇は製品の出荷、価格に影響。対策を進めているが苦労している。
- 原木市場には国有林材の入荷が進んでいるが、民有林材は非常に少ない。買い意欲は6、7月を底に非常に強くなってきている。県内の一部の製材業者では、製材品の需要が旺盛で生産能力が追い付かない状態と聞いている。共販価格も6、7月の底に比べ4割ほど上昇。ヒノキは異常な上がり方をしているが、中国木材の工場火災の影響により米マツの代替需要が要因と考えられる。
- 天候や市況価格の影響で共販所への原木の入荷が少ない。製材工場の在庫も少ないことから、8月に入り原木の引き合いが強くなり、価格が上昇している。出荷側は今後、搬出間伐や保育作業から皆伐作業に移行していくので、10月以降は例年並みの出材が見込まれる。
- 原木価格が安いということで入荷量は減っている。夏場の下刈り時期が終了し、虫害も治まったことから、これから皆伐する箇所も出てくるので出材量は増える見込み。原木価格は入荷が少ないため若干上昇。3m材の荷動きはまだ悪いが、4m材は足りない状況で値段も上がってきている。
- 原木については、春の価格の大暴落により、初夏より極端に流通量が減少したこと、夏場の虫害の季節だったことから供給不足感があり買いが強い。原木価格は7月中旬よりスギ3m柱材、9月に入ってヒノキ材が上昇傾向。新材の出材や10月中旬以降の記念市の開催により、短期的には価格が少しずつ上昇すると思われる。